

まつうらさんと たびするほん2

ヨイチ越山道(イノウ峠)
ルベシベ通行屋
スツツ~イシカリルート

タケシロードツアー-G



こんかい とうじょうする ちめい



まつうら たけしろろ 松浦武四郎

- ★三重県松阪市出身
- ★1818年2月6日生まれ
- ★えぞちの土地と人を守るため、けわしい山や谷を歩いてそのようすをちようさ。しんそくほこく神速歩行という秘技で1日60～80km、すごいスピードで歩く。
- ★蓑が大好き。

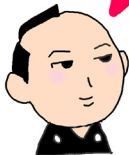


- ★アイヌから地名をきいて地図に残す。私たちのすむところ=
- ★絵と作文がとくい。
- ★ハンコブくりがとくぎ。
- ★好きなたべものはいり大豆。
- ★根室のスジコムが大好き。

そんけい!

よき
りかいしゃ!

ななかま!
えぞちの人と
みらいを守ろう!



堀 利熙

函館奉行。えらい人なのに自らえぞちを巡回。

1818年生まれ



玉虫 佐太夫

堀にスカウトされた仙台出身の秀才。

1823年生まれ



島 義勇

札幌市と北海道神宮をつくった。佐賀出身。

1822年生まれ

「チーム堀」…えぞちがいたくのためにえらばれたエリート集団。



1857年閏5月25日* イシカリ

まつうらさんは、玉虫と島にすいみんをさまたげられていた。なぜこうなったかは「まつうらさんとたびするほん」をよもう。3人は、ライデン峠のあとのイノウ峠の話をしていた。
*閏とは、...この年のこよみは5月が2回あり、2回目の5月を閏5月という。

シリベツ川
こわかった。
セベンケ、イヤイライケレ。

いいて
こつ。



あしたから
オレかい
ガイドかな。

うまっ!

ベベウタシ

さかのぼること1857年5月13日 シャマツケナイ笹小屋
岩内アイヌ・セベンケのかつやくにより、幻のソーヅケ
(倶知安町高砂) までとうちゃくしたまつうらさんは、シ
ヤマツケナイ(共和町国富) までもどってきた。イシカリ
に向かっ、ここからイナウ峠(ヨイチごえ山道) をとお
ることにした。*イヤイライケレ=ありがとう



さ、いふ。

よろしくね。

1857年5月14日 快晴

アイヌのベベウタシにガイドしてもらってセトシ原野から川づ
たいにイナウ峠へむかう。この山道は、1809年にアイヌの冬道
を元につくったが、まつうらさんが来たころはほとんど使われ
なくなっていた。



イワナイ場所*の商人が、松500本、杉600本をうえて、なみ木道
みたいになっていた。

「新しい道をつくらずに、この道をもう1回つくりなおせばいい
のになあ。」と、まつうらさんはいった。

*場所=漁場やおきないをおこなうところ



おくへすすむと、両側の山がどんどんせまってくるようにけ
わしくなってきた。川もだんだん細くなってきた、峠がちか
づいてきたようだ。道はまだ、ほぼ平たんである。

ためしよみ

は

ここまでです